

請願第27-1号



手話言語法制定を求める意見書の提出を求める請願

紹介議員

飯田 正憲 

村上 寿之 

萩原 瑞子 

手話言語法制定を求める意見書の提出を求める請願

【趣旨・理由】

手話とは、日本語を音声ではなく手や指、体などの動きや顔の表情を使う独自の語彙や文法体系をもつ言語である。手話を使うろう者にとって、聞こえる人たちの音声言語と同様に、大切な情報獲得とコミュニケーションの手段として大切に守られてきた。

しかしながら、ろう学校では手話は禁止され、社会では手話を使うことで差別されてきた長い歴史があった。

2006（平成18）年12月に採択された国連の障害者権利条約には、「手話は言語」であることが明記されている。

障害者権利条約の批准に向けて日本政府は国内法の整備を進め、2011（平成23）年8月に成立した「改正障害者基本法」では「全て障害者は、可能な限り、言語（手話を含む。）その他の意思疎通のための手段について選択の機会が確保される」と定められた。

また、同法第22条では国・地方公共団体に対して情報保障施策を義務づけており、手話が音声言語と対等な言語であることを広く国民に広め、きこえない子どもが手話を身につけ、手話で学べ、自由に手話が使え、更には手話を言語として普及、研究することのできる環境整備に向けた法整備を国として実現することが必要であると考えます。

よって、下記事項を請願する。

記

- 1、手話を音声日本語（Japanese）と同様、国語（National language）と同じ位置で教育を行う事。
- 2、きこえない子どもが手話を身につけ、手話で学べ、自由に手話を使えるよう、ろう学校および一般校における環境整備を行う事。
- 3、手話を言語として普及、研究することのできる環境整備を行う
- 4、以上を目的とした「手話言語法（仮称）」を制定すること

平成 27年 2月 4日

請願者

住所

氏名

笠間市聴覚障害者協会



笠間市議会議長

藤枝 浩 殿

以上